

平成30年10月28日

野生動物の命をアウトドア感覚で奪う 「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」の開催中止を求めます



～全生物のため、人のため、クマたちが棲める水源の森を再生しよう～

一般財団法人 日本熊森協会

電話 0798-22-4190 email: contact@kumamori.org

会長 室谷 悠子

(1) レジャーやゲーム感覚で狩猟者を養成するのはやめてください

私たちは、これまで何度も環境省に、すごいアウトドア！！という表現をやめること、どこがエコ・ライフなのかわからないと訴え続けてきました。2013年8月3日に栃木県の宇都宮大学で開催された上記フォーラム会場前でも、熊森栃木県支部の会員と共に抗議活動を行いました。私たちは狩猟を100%否定しているわけではありませんが、レジャーやスポーツ、ビッグゲームとして野生動物の命を奪うことは、絶対に認められません。若者に軽い気持ちで罠や銃を持たせることは、教育上も、社会安全上も、若者自身にもマイナスで、人身事故にもつながります。このようなイベント開催を即刻中止してください。

(2) 環境省は野生動物の命や生息地を守ってください

野生動物による農作物被害等の問題を、野生動物を無差別に大量殺害することによって解決しようとしている環境省の方針に、私たちは人間として耐えられません。近年、野生動物が山からどんどん出て来るようになったのは、戦後の①奥山開発、②スギやヒノキの奥山造林やその放置、③酸性雨等による奥山自然林の荒廃等によって、野生動物が生息地を失ったこと、④中山間地の過疎化高齢化など、人間が主な原因を作っているのです。環境省は、野生動物たちの命を守ることや彼らの生息地の復元にこそ全力を注いでください。

(3) 野生動物と棲み分け・共存してきた古き良き日本文化を尊重し、野生動物の無差別大量殺害政策を即止めてください

わが国では、明治になるまでの1200年間、「殺生禁止令」が出続けていました。先人たちは、野生動物を殺すことなくかれらと共存しようとして、大変な苦勞をしてシシ垣を造り、棲み分けてきました。しかし平成の日本は、野生動物の生息地である山中にまで罠を仕掛け、安易な無差別捕殺が日常的に繰り返されています。これは、1999年に環境省が、人間の手で科学的・計画的に野生動物の生息数をコントロールする(Wild Life Managemennt)という西洋手法の対応を導入したことによるものです。その結果、クマを狩猟して食べる文化のない兵庫県でも、クマ狩猟やクマの大量捕殺が強行されています。

今や我が国は、人間中心・経済第一・科学過信の西洋文明にどっぷりとつかってしまっていますが、野生動物にも私たち人間と等しくこの国で生きる権利があります。環境省としては、古き良き日本の道徳心ある誇るべき生命尊厳文化を守る義務を果たしてください。